

12月18日

3回目の一般質問一問一答+まとめ

プラごみ削減について-1

質問 日本一のみちの駅を目指すよおかマルシェ
国の制度化を待たずに、早期にレジ袋有料化の徹底は？

答 南信州レジ袋削減推進協議会の登録店加盟に向けて
順次取り組んでいく。

質問：今年6月15・16日に軽井沢で開催されたG20 エネルギー・環境閣僚会議では、海洋プラスチックごみによる地球規模の汚染の深刻化が問題とされた。

プラごみの海洋への流出は世界で年間数百万トンを上るとされ、2050年にはプラごみが魚の量を上回るとの試算もある。国連が提唱するSDG's 17の目標の14番目にも『海の豊かさを守ろう』が掲げられている。

レジ袋も、一部店頭で回収し、レジ袋や他のプラスチック製品の原料の一部とする取り組みもあるが、廃棄されることが多く、政府は来年4月からレジ袋有料化を予定したが、産業界の意見を考慮し、7月に延期する方向としている。

当地では、早期から地元スーパーや大手ショッピングセンター、パルム、Aコープなどで実施済みであり、食品トレーの店頭回収も当たり前になっている。

日本一のみちの駅を目指すよおかマルシェでも、レジに『当地ではレジ袋有料化』と、優しく小さな字で表記しているが、断らない限り普通にレジ袋をくれることが度々ある。国の制度化を待たずに、レジ袋有料化の徹底や、断った人にポイント付与する。エコバック利用推進など、に取り組めないか。

環境課長：レジ袋の削減について、平成20年7月に南信州レジ袋削減推進協議会がこの地域で発足している。その内容は登録店でのレジ袋無料配布の中止。有料化をスタート。現在の協議会への構成団体は、本年7月現在で事業者が6社、消費者の団体が15団体、16行政機関が加盟し協議会として、毎年9月と2月に統一行動日を設けて取り組んでいる。豊丘村では2月の統一行動日に合わせて店頭でのPR活動を毎年行っている。

村内での登録店の数は、現在は2店舗。道の駅の関係では、直売所では有料化。テイクアウトのコーナーではまだ無償配布。マルシェについてはまだ登録店ではない。これから登録に向けて協力をお願いしていければと思う。来年の2月にも引き続きPR活動等を予定している。登録店の加盟に向けて順次取り組んでいく。

質問 道の駅が村の活性化のための施設であれば、メッセージ性のある取り組みも期待される。プラスチック製ストローを廃止は？

答 スターバックスにおいても紙製のストローにすると、新聞紙上で報道されている。道の駅が先に立って動くという事は村のイメージも上げると思う。検討していきたい。

そもそもプラスチックって？ なぜ問題になる？

プラスチックはもともと製油所からの副産物をプラスチックペレットとして利用し、様々な素材に転換し利用されているが、完全に分解されて**自然に還らない**ことで環境を汚染する。

プラスチックはどれくらい製造されてきたか？

世界のプラスチック生産量は 1950 年から急増し、2017 年には 1950 年当時の 230 倍、4800 万トンという報告もある。ヨーロッパのプラスチック・ゴム関連の業界団体であるユーロ・マップの調べによると

日本人の一人当たりのプラスチック消費量は 2009 年 57 kg、から 2015 年 63 kg と報告されている。6 年間で一人当たり 6 kg 増えている。

使ってすぐゴミになる・・・使い捨てプラスチックをどうする？

プラスチック消費のうちの容器包装プラスチックは約 1/3 以上を占めると言われている。容器包装プラスチックのうち、使い捨てで一番身近なものがペットボトル、レジ袋、ストローなどがある。日本のペットボトルのリサイクル率は 2017 年度で 84.8%。日本の全国清涼飲料連合会は 2030 年度までに使用済みペットボトルを 100% 有効活用する目標を発表している。この有効活用にはリサイクルできないとして熱回収（焼却して熱をエネルギー利用する）も含まれる。有効活用とはいえ、熱回収は再利用ではなく、海洋汚染はしないとしても、廃棄することは変わらない

質問：レジ袋はリユースも可能だが、プラスチックストローはその用途からもリユースは難しく、回収ルートも整備されていない。

日本では年間 200 億本のストローが使われていると言われている。プラスチックストローを植物由来の生分解性プラスチックなど代替品の導入も含め、プラスチック製ストローを廃止するなど、道の駅が商売の場というより、**村の活性化のための施設であれば、メッセージ性のある取り組みも期待される。**

村長のご意見をお聞きしたい。

村長：スターボックス(?)においても紙製のストローにすると、新聞紙上で報道されている。コンビニにおいても紙製のストローを用意したいという話で動いている。

温暖化から始まり、ゴミの話、今回皆さん上勝町に行かれたということで、ゼロウェイストということでいろいろな質問が出ているが、いかにゴミを出さないかということがこれから一番大事なことだろうなと思います。そういう意味で道の駅が先に立って動くという事は村のイメージも上げるといいますので、検討していきたい

★メモ★ (一般質問の私の発言の中から)

駒ヶ根の赤穂高校の生徒会は来年7月の文化祭のテーマを「プラスチック・フリー」に決め、今からユニークな企画に取り組んでいる。ウミガメの鼻や海鳥の胃袋にプラ製のストローが詰まっている動画を見て、生徒総会でできるだけプラスチック製品を使わない展示、飲食物の販売。を決めたと聞いています。プラ製のストローの代替品として大麦に注目。中庭に大麦とライ麦の種をまいた。来春6月収穫後、切りそろえて洗浄してストローとして仕上げる、という。(信濃毎日新聞の記事より言及)

★豊丘村の段丘に繁茂するササ
バンブーストローはいかが？



プラごみ削減について-3

質問 ゴミ分別の変更で、燃やすごみが増えたことで村のゴミ処理費が上昇していると聞く。今の状況をお聞きしたい。

答 稲葉クリーンセンターの長期契約で経費は削減されているが、燃やすごみの量が増えているのは事実。

環境課長：一番大きな変更点は、いなばクリーンセンターが操業を開始したこと。

今まで廃プラスチックを集めていたが、廃プラスチックが燃やすごみに移行してきたこと。

そのほかの物はそれまでと変わっていない。ただ、プラスチックは燃やせる、という中で、今まで洗って分別していた容器包装プラスチックが燃やすごみの方に一部回っている。紙製容器包装も紙の資源になるものが一部燃やすごみにはいってしまうことで、燃やすごみの量が増えているのは事実。

ちなみに29年度9月以降3月までの間、月平均で46トンを少し超える程度。平成30年度では月平均で49トン。本年度は11月までの収集量を月平均にすると50.7トンで、毎年増えている。これに対する費用は、稲葉クリーンセンターの運営費用は、当初の契約は20年の中でメンテナンスも含めた長期の契約で、以前の桐林の運営費に比べると4億～5億の削減はできている。今まではプラスチックは燃やせなかったので、助燃罪などを入れて燃やしていたケースもあり、経費的に高かった。20年で見ると4億、5億という額が削減できている現状だが、燃やすごみが増えることで思わぬ機械の修繕などで費用が増える懸念はある。しかし、一概にゴミが何%増加したからで何十何百万増えていくという試算は現段階ではできていない。

いずれにしても燃やすごみの減量は、いろんな面で今日からでも皆さんが取り組めることができるという事で、分別の再徹底をしていただければと思う。

徳島県上勝町の有人ゴミステーションの分別表示の例



わかりやすい表示

【緑〇に入マーク】は分別してリサイクルして村にお金が入ってくるもの



【赤い丸に出マーク】は処理費用がかかるもの。なるべく少なくしたい

質問 ゴミ問題は誰もが当事者で、誰もが発言できること。

とよおかゴミ・フリー会議などを企画し、**これからのごみ削減の仕組みづくり**を提案したい。

人口減少を緩やかにするため、ひとつの柱として「環境にやさしい村」を加えてみてはいかがか

答 住民が知恵を出し合い、住民参加型でのルール統一、収集方法の検討を行う機会は大変重要な取り組みだと思う。

質問 保ゴミ問題は誰もが当事者で、誰もが発言できること。こどもから大人まで、地域や学校、商店や会社など様々な場で知恵を出し合い、**空気を醸成することが何より大切**ではないか。とよおかゴミ・フリー会議などを企画し、これからのごみ削減の仕組みづくりを提案したい。

例えば、○豊丘村のゴミの現状を知る

○これから、私たちはどうしたいのか ○ゴミ削減目標の設定

○ゴミ処理費縮減目標 ○目標を実現するための具体的な方策と工程表を皆で考えることが大切だと思う。

また、少子高齢化の世の中、日本全国、大都市圏以外の市町村は人口減少対策を課題に掲げている。豊丘でも、人口減少を緩やかにするため、六次産業化などの地域の産業振興、子育て支援、宅地造成に力を入れている。それに次ぐ、もうひとつの柱として「**環境にやさしい村**」を加えてみてはいかがか。上勝町のゴミの収集 13品目 45 分別は、野焼きでゴミ処理をしていた小さな町のゴミ処理に係る財政負担という課題を、ゼロウェイスト宣言で注目され、それによって交流人口を増大している。ごみ問題を切り口として環境問題に真摯に取り組むことは、住民のモラルや活力の向上にもつながりますが、**地域の誇りとイメージアップにも繋がる**と思う。

村長のお考えは

村長：ごみの削減や減量化は**誰もが今日から**取り組めることです。レジ袋の削減、燃やすごみの削減、プラスチックごみの削減等、住民が知恵を出し合い、住民参加型でのルール統一、収集方法の検討を行う機会は大変重要な取り組みだと思う。

一つの方法として毎年行われている**公民館学習会**や、分館学習会でゴミの問題を扱う事は身近な課題として取り組みやすい方法と思う。**教育委員会や公民館とも相談しながら、検討してみたい**と思う。

議員の皆さんも上勝町を視察した立場から、これからの豊丘のゴミの収集方法やごみ減量化への取り組みなどを提案して頂き、住民と一緒に考える機会を作ってもらい、共に行動して頂きたい。

実は、豊丘村の今のゴミステーションも、7-8年前、議員の皆さんが上勝町に行ってゴミステーションを見て来て、村民の皆さんのためになる、ということで始めた。これはゼロウェイストとは違うスタンスで。住民の皆さんに、ゴミを持ち込み分別できる場所を作る、住民サービスとして始めた。今も続いている。ゼロウェイストは、切り口としてこれから大事な事はよくわかっているが、これらのことについては**行政が決めて動くことではなく、住民の皆さんの中から自発的な行動が出る中で、行政が取り上げながら地域の未来を考え、行動していくことが大事**だと思う。是非ともそのような考えの中では、行動も示していただきたい。

★メモ★（一般質問の私の発言から）

地球温暖化の問題などの中で、スウェーデンの環境活動家グレタ・トゥンベリさんが国連でのスピーチは、若い世代の切実なメッセージであり、私たち大人に対して強烈な印象が持たれていると思う。自治体による『気候異常事態』宣言については、河野議員も触れられた。

2050年までに 白馬村は再生可能エネルギー自給率 100%、県は二酸化炭素CO₂排出量実質ゼロを掲げた。大事なのは、どう具体化させ、結果に結びつけるかだが、これらの取り組みは、行政が税金を使って実行する事業ではなく、一人一人の住民の意識の高揚により宣言という形のスタートラインに立って目標を定めたという事に意味がある。

太陽光パネル設置補助金の利用が減り、今回の補正予算では申請見込みが薄いとして減額されている。村民も気持ちはあっても、大きなお金のかかることには及び腰になりやすいことはある。

一方、この秋の台風 19 号の被害、COP25 についての報道を耳にし、誰もが地球環境に関心ではられない。

ゴミ問題は、生活そのものから地球環境を見直す、最も身近で誰もが取り組める課題。不用品リサイクルの提案も唐澤健議員からあったが、「リサイクル」「リユース」「リデュース」、「プラスチック・フリー」。いろいろなことができると思う。上勝町の取り組みは十何年も続けている長い息の事業として事業化されている事もあり、それをそのまま豊丘でとは考えていないが、

私たちの村の地形、住まい方、いろいろな要素をひっくるめて

みんなで考え、行政も単にゴミ処理費用の縮減ではなく、
環境にやさしい村を作ろうというようなスローガンのもとに
住民も行政も皆がその方向に向かうことは、外から見ても
素敵なお村になると思うので、是非少しずつ進められたらと思う。